

資源の循環的な利用

- 水資源の有効利用  
各棟の屋根面（緑化範囲除く）と外壁面に降った雨を地下ピットに集水し、雨水ろ過装置にて既定の水質に調整後、雑用水槽へ供給し、トイレ洗浄水として利用します。
- 廃棄物の減量、リサイクル、再資源化  
再生骨材などリサイクル材やエコマテリアルの活用、伐採した樹木等の再利用など、廃棄物の減量、リサイクル、再資源化に努めます。

公害の防止

- 日照の確保・風害対策  
外壁面のセットバックにより周囲への日影の影響を低減し、各階に庇を設置し凹凸のある壁面とすることで風の影響を低減します。

近隣への配慮事項

- 敷地外周の植樹  
敷地外周には樹木を植えることで、建物からの視線を抑制する計画とします。
- 屋上緑化  
屋上の建物際には、中木等を植えることで、近隣住宅への視線を防ぐ計画とします。
- 建物形状の工夫  
建物のセットバックなど、建物形状を工夫し、可能な限り、圧迫感や日影の影響を低減します。

ユニバーサルデザインに関する配慮

- ・屋外空間も含め、誰もが歩きやすく、車いす等での移動がしやすいよう、段差のない動線や避難スペースの確保、手すり・ベンチ等の設置を行います。
- ・高齢者や障害のある方もすべての人が、東西南北どこからでもアクセスできるよう、エレベーター等を適切に配置します。
- ・「案内」「誘導」「位置」のサインを適所に配置し、利用者がスムーズに施設を利用できる計画とします。
- ・文字は多言語・ピクトグラムで表記し、誰にでもわかりやすい計画とします。

エネルギーの有効利用

- 自然エネルギーの利用
- ・省エネ及びCO2削減、環境配慮を目的に、太陽光発電設備を60kW計画します。
- ・東敷地の地中に地中熱採熱管（地中熱交換器）を設置し、空調の熱源として利用します。外気よりも温度が安定した地中熱を利用することにより、空冷に比べて高効率かつ、排熱を抑えることによりヒートアイランド現象を抑制し、CO2排出量の削減も図りながら、冷暖房を行います。
- ・執務室にはエコポイド（吹抜け空間）を設置し、自然通風を促します。
- 省エネルギーの配慮
- ・建物外周部の庇やルーバーによる直射日光の制御やLow-Eガラスの採用などにより建物の高断熱化を図ります。（ペリメーターゾーンのPAL値1.0以下を確保）
- ・電灯設備はLED照明、昼光・人感センサーの採用、タイマー制御など消費電力を抑えた計画とします。
- ・空調設備は室の用途や形状に応じ、空調方式を適切に選定し、全熱交換器や高効率機器を設置します。
- ・給排水設備は節水型衛生器具や自動水栓などを使用することにより節水に努めると共に、高効率給湯設備の設置により、省エネに努めます。
- ・区民会館等は、室内のCO2センサーにより、取り込む外気量を調整することで、外気負荷を抑制し空調エネルギーの低減を図ります。
- ・建物内のエネルギー使用状況や設備機器の運転状況を把握し、最適な運転制御を行うための中央監視システムを導入します。
- ・熱源から空調機までの冷水・温水の行きと還りの温度差を通常より大きくし、送水量を小さくすることでポンプの消費電力量の低減を図ります。
- ・ガスエンジンをういて発電を行うと同時に、その排熱を空調・給湯などに活かすコージェネレーションシステムを採用し、エネルギーの有効活用をはかります。また、災害時には発電機としての利用も可能です。

災害対策

- ・リングテラスに接続された低層型庁舎とし、連携性・可変性に配慮した災害対策拠点とします。
- ・免震構造を採用し、構造躯体の倒壊防止レベルは建築基準法で求められる一般建物の1.5倍の耐震性能とすることで、地震時の安全を確保します。
- ・非常用発電機は液体燃料の備蓄により7日以上稼働する計画とします。
- ・受水槽の水の活用の他に防災井戸を設置することにより給水を確保します。
- ・防火水槽を東西100mずつ設置し、火災時への対応とします。
- ・災害時に破断の可能性が少ない中圧ガスの引き込みを行います。
- ・防災倉庫や災害トイレを設置し、職員1300人分の災害対策業務をサポートします。
- ・中央広場は、区民が災害時に一時避難できる場所になります。

良好な風景の形成

- ・敷地中央に広場を配置し、開かれつつも落ち着いた感じのある広場の特徴を継承します。
- ・立体的な広場としても利用できる2階テラスを計画し、区民の活動が風景として広場に展開する計画とします。
- ・建物は3階以上をセットバックし、圧迫感の低減に配慮します。

環境にやさしい快適な舗装空間の創出

- ・ケヤキの既存木を保存して舗装面に快適な緑陰を提供します。
- ・透水性・保水性の舗装により、雨水流出の抑制に寄与するとともに、路面温度の上昇を抑えます。
- ・雨水貯留浸透機能により雨水の流出を抑制します。

みどりに係る環境の確保

生きものの生息環境の確保

水に係る環境の確保

- ・ケヤキ並木は木漏れ日空間として極力保存し、北側はケヤキを新植することで、ケヤキ並木を延伸します。
- ・南側の池周辺の水景は、修景して、そのまま継承し、地下へのアプローチ空間としてみどり豊かな環境を保全します。
- ・広場のケヤキは、心地よい大きな日影として極力保全します。

歴史的文化的遺産の確保

- ・広場中心の既存の配置構成を踏襲します。
- ・区民会館は改修を行い、区民活動の舞台として保存・再生を行います。

凡例：歩道状空地等